

法華経ってなに？

『法華経』の教えには、お釈迦さまが長い時間かけて行った修行と、その結果得られた功德（ごくとく）が説かれています。

『法華経』は大変長いお経ですが、その題名である「妙法蓮華経」の五字の中に『法華経』に説かれているお釈迦さまの真理が込められています。ですから、その「妙法蓮華経」を心から信じ、教えを毎日の生活の中で実践し、何よりも口に出して唱えることにより、お釈迦さまの真理を譲り受けることができるのです。

『法華経』の教えを一言で呼び表したのが「南無妙法蓮華経」というお題目であり、そのお題目を唱えることは、永遠の命を持った『法華経』の中に説かれているお釈迦さまと一体になること、つまり、この世で成仏することです。「南無」とは「妙法蓮華経」というお釈迦さまの教えにすべてを捧げるという意味です。

日蓮聖人は、その「南無妙法蓮

華経」を自ら唱え、実践し、人々にも唱えることを勧めた『法華経』の行者（菩薩）でした。

日蓮宗の信仰ってなに？

仏教は仏の教えであり、仏になるための教えです。では、どのようにしたら仏になれるのでしょうか。

日蓮聖人は命をかけて『法華経』を学び、実践し、人々に『法華経』を説かれました。

『法華経』には、お釈迦さまの智慧（ちえ）と慈悲（じひ）が説かれ、苦しむ私たちを救う役割を担（にな）っている菩薩が登場します。菩薩とは、仏になれる資格があるのに、あえて仏にはならず、苦しむ私たちを救うことをお釈迦さまと約束した方々なのです。

日蓮聖人は、お釈迦さまの教えを手本とし、自ら菩薩となって苦しむ私たちを救おうとされました。

私たちも「南無妙法蓮華経」とお題目を唱え『法華経』のように生き、菩薩として他の人々を救うという気持ちを持つことが信仰です。

お題目を唱え『法華経』を実践することは、日蓮聖人の誓願（せいがん）です。

私たちも、日蓮聖人に導かれて『法華経』の世界に生きることを誓いましょう。

修行ってなに？

修行とは、まさに文字のごとく「修正」する「行い」です。煩惱（ぼんのう）によって間違った生き方を『法華経』によって正しく修正していくのが日蓮宗の修行です。

修行は、たまに思い出して行うものではありません。毎日毎日欠かさず行うことが大切です。とは言ってもの毎日お寺に行けるわけでもありません。そこで、家庭で修行ができるように、ご本尊を安置したのが仏壇です。

お仏壇は、まさに家庭の中のお寺の本堂です。お寺で朝のお勤めが行われるように、仏壇の前にしてお水やお茶をお供えし、ローソクを灯してお線香を立て、威儀（いぎ）を正して読経（どっきょう）とお題目を唱えます。

大切なことは「菩薩の修行」を行って生きていくことを自覚することです。

「菩薩の修行」とは、他に施し、仏教で定められた約束を守り、苦しみを耐え忍び、努力を怠らず、心を静めて『法華経』の真理を理解することです。

この修行が、私たちを正しい道に導いてくれるのであります。

